

## 平成30年度 大野南地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年11月13日(火)午後7時から午後9時25分まで
- 2 場 所 南区合同庁舎 3階 講堂
- 3 市側出席者 湯山副市長、佐藤南区長、谷危機管理局長、岩本経済部長  
荻野まちづくり計画部長、阿部南区副区長、樋口市民局次長
- 4 出席委員等 38人
- 5 傍聴者 14人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	市の南の玄関口としての今後のあり方について
概要	<p>中心市街地として位置づけられた相模大野駅周辺は、「風格のあるまちづくり」をキーワードに、市の南の玄関口として商業施設や高層住宅、文教施設などの多様な機能を集積し、一体的なまちづくりを進めてきた。その結果、大野南地区は、今後策定される次期総合計画及び都市計画マスタープランにおいて市が目指すコンパクトシティの先駆けとして充実発展してきた。</p> <p>この度、その中心市街地を形成する核店舗である伊勢丹相模原店が閉店するとの報道がなされ、市の南の玄関口としての今後のあり方について、市は、どのように考え、対応していくのか、地域との連携、また地域に期待することも含めて懇談したい。</p>
課題事項1	中心市街地としての都市機能を維持するための地域と行政の取組について
概要	<p>伊勢丹相模原店は、相模大野駅と相模女子大学グリーンホールや相模大野中央公園といった市民が集う公共施設との間に位置し、周囲の活気ある地元商店会とともに本市の南の玄関口を代表する一大商業地を形成する核と言える存在である。</p> <p>今後も、この中心市街地としての都市機能を維持していくためには、地域の意見を十分に聴取したうえで、相模大野駅から相模女子大グリーンホール及び相模大野中央公園までの動線を確保することや、まちのイメージを損なわない、新たな商業施設等が必要と考える。</p> <p>この課題解決のため、地域と行政が一体となり、早急に今後のあり方について検討し、具体策を含めた市の考えを伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>相模大野駅周辺については都市計画マスタープランにおいて、文教施設と商業・業務施設が高度に集積する市の南の玄関口として、多くの人が行きかう賑わいのある都市づくりを進めてきた。</p> <p>相模大野のまちづくりは街の広がりや人の回遊性を確保するため、伊勢丹・グリーンホール相模大野と小田急相模大野駅ビル、西側地区の3つの核にそれぞれの特徴を持たせた整備を行い、三核構造のまちを目指してきた。公共歩廊については、市、都市整備公社(現まち・みどり公社)、伊勢丹の3者において、供用形態及び保守管理について、協定を締結している。</p> <p>伊勢丹が所有している歩行者動線部分が失われてしまうと、通路が分断され、周辺公共施設への利便性や歩行者の安全確保など、市民生活への影響が大きい。そのため、従来どおり歩行者動線を確保し、市民が安全で快適に過ごしていただ</p>

	<p>くことに配慮してもらうこと、また、三核構造のまちづくりによる街の広がりと同遊性が損なわれないよう、伊勢丹に対し強く要請している。（都市建設局）</p> <p>伊勢丹撤退後は、これまでと同様の商業機能を持ち、街の個性や雰囲気損なわない商業施設の出店が必要と考えており、伊勢丹と協議を重ねているところである。本市と伊勢丹が築いた地域コミュニティの機能も引き継げる商業施設が必要と考えている。（環境経済局）</p>
<p>主な質疑等</p>	
意見等 (提案者)	<p>地域としては、市とほとんど同じ考えである。その考えを具体化していくためにどうしたらよいか、今後も検討していただきたい。</p>
質問要旨	<p>伊勢丹と協議をしているとのことだったが、具体的にどういった部署とやり取りをしているのか。また、伊勢丹と協議を進めている中で、どういった感触を掴んでいるか。</p>
回答	<p>伊勢丹の本部と協議を進めており、主に伊勢丹の組織的な部分を見直す部署である構造改革推進部と、再開発等について検討しているCRE戦略本部とやり取りを行っている。市としては、これまでのまちのコンセプトを継続させていくことについて申し入れをしている。</p> <p>協議を進める中で、直接表明されたわけではないが、市との役割分担や伊勢丹の社会的な責任等について、伊勢丹としては大事にしていきたいという気持ちがあることは窺える。</p> <p>なお、市が伊勢丹の閉店について知ったのは、正式発表があった9月26日であり、事前に措置を行うのは困難であった。（環境経済局）</p>
質問要旨	<p>平成2年に伊勢丹の誘致が行われたが、市の中で、伊勢丹をまちの核として育てようとする意識が薄れてきてしまっているのではないかと。</p>
回答	<p>伊勢丹相模原店では市の子育て支援の拠点づくりを行ったり、商業地形成のためのイベントを開催したりするなど、様々な取組を行ってきたが、結果として、伊勢丹が閉店するという残念な形になってしまった。（環境経済局）</p>
質問要旨	<p>伊勢丹は企業であるということを念頭に、より早いペースで協議を進めることが重要ではないか。</p>
回答	<p>企業相手のため、早いペースで協議等を進めることについては、重々承知した上で、取り組んでいる。（環境経済局）</p>
質問要旨	<p>地域の思いをしっかりと伝えるためにも、たとえば伊勢丹と市の協議に、一般市民が参加することは可能か。</p>
回答	<p>協議に一般市民が参加することについて、伊勢丹に対し提案することは可能であると考えている。（環境経済局）</p>
質問要旨	<p>伊勢丹と新しい人間関係を築く勢いで、積極的に協議を進めていただきたい。</p>
回答	<p>本市が伊勢丹本社を訪れ、協議を行うことはもちろん、伊勢丹本社の方にも何度か相模原を訪れていただいているところであり、熱意と責任を持って進めたいと考えている。（環境経済局）</p>
意見等	<p>今後のまちづくりの方向性について、情報を積極的に発信していただくことで、地域住民の不安も減るのではないかと考える。</p>

質問要旨	<p>伊勢丹の閉店を一つのターニングポイントとして、商店会の組織づくりを進めるなど、できる限りのことは行っていきたいと考えているが、限界もあると感じている。当該地が売却された際、市として、自由通路を購入するなど、最低限でできることはしていただきたい。</p> <p>伊勢丹と市が協議を進めたとしても、伊勢丹の内部決定が、後日遅れて正式発表され、突然協議が頓挫してしまうこともあり得るのではないかと。</p>
回答	<p>伊勢丹が当該地を売却した際、後続店にまちのコンセプトをどうしたら引き継いでいただけるのか、考えながら協議を進めているところである。</p> <p>当該地について売却を行うなど、伊勢丹が内部決定を行い、正式発表を行う前に、市として申し入れをし、協議を進めているところである。（環境経済局）</p>
質問要旨	<p>平成2年に市と伊勢丹が交わした協定は文書で行ったものか。</p> <p>また、伊勢丹閉店後は二核になってしまうため、二核構造になった時のまちづくりについて、考えていく必要があるのではないかと考える。</p>
回答	<p>平成2年に締結した協定は文書で行ったものであり、紳士協定である。</p> <p>相模大野のまちについて、あくまで市としては、三核構造の形を保っていきたいと考えている。（都市建設局）</p>
質問要旨	<p>伊勢丹相模原については、売上があまり好ましくないという話も伺っているが、地域としては、なるべく伊勢丹に残っていただきたいと考えている。</p>
回答	<p>伊勢丹が相模大野で30年ほど営業している中で、一番売上が多い時期では、年間で360億円から370億円ほど売り上げていた。しかし最近の状況としては、新聞報道でもあったとおり、195億円と、200億円を切っている。市が店舗を直接訪問する中で、以前から業況が芳しくない状況は窺っていた。</p> <p>市としては、市の特産品を販売するイベントを開催したり、相模原市民文化財団とタイアップでイベントを行ったりするなどして、集客の増加に努める様々な取組を行ってきたが、歯止めが利かず、売上が落ちていってしまった。</p> <p>伊勢丹に限らず、百貨店は年間200億円の売上を切ると撤退を考えるとということである。これは相模大野だけに限らず、全国的にもあり得ることである。</p> <p>現代は、インターネットで物を購入する時代であり、百貨店という業種自体、時代に合っていないのかもしれないと考えている。</p> <p>市としては、三核構造でまちづくりを進めていく方針は変わらず、相模大野のまちが今後も商業の核であり続けるように、できる限りのことを行っていきたい。（環境経済局）</p>

テーマ 2	地域防災力の強化につながる「災害発生前の公助」のあり方について
概要	<p>大規模災害での被害を少なくするためには、災害発生前の取組が重要と考え、各自主防災隊は、日頃より連絡体制の強化、防災訓練及び防災物品の充実等に努めている。</p> <p>しかし、近年は地震だけではなく、ゲリラ豪雨等の今までに経験したことのない災害が頻発しており、それらに対する現状の防災体制は有効なのか不安に感じるとともに、現行の補助制度を利用した発災前の自助、共助の取組にも限界を感じている。</p> <p>そこで、更なる地域防災力強化のため、発災前の公助のあり方について懇談したくお伺いする。</p>
課題事項 1	市民が身近に感じることができる危機管理体制の構築について
概要	<p>想定外の災害に迅速に対応していくには、現在の危機管理局に集中した防災体制で各区の地域性の違いに対応できるのか不安である。各区に専門の危機管理部局を設けることで、より地域に密着した危機管理体制を構築することができるのではないかと考えるが、区役所の権限強化の観点も含め、市の考えを伺いたい。</p> <p>また、災害情報や避難情報を確実に市民に伝達する体制づくりも重要な公助と考えるが、近年の騒音対策が進んだ住宅では、ひばり放送の内容が聞き取れないことが多々あり、防災メールは高齢者にとっては扱いが難しいとの声を聞く。そこで、総務省も普及促進している戸別受信機の設置と市民への情報伝達体制のさらなる強化が必要と考えるが、市の考えをお伺いする。</p>
市の取組等の説明	<p>災害時における本市の防災体制については、市災害対策本部の設置とともに、地域における総合的な応急対策を行うため、区長を本部長とした区本部を設置するとともに、市の本部を設置する前でも、状況に応じ、区長の判断により区本部を設置するなど、各区において地域特性に応じた被災者支援等の対応を行うと定めている。</p> <p>こうした各区の危機管理体制としては、地域防災に関する業務の所管を区役所地域振興課とし、まちづくりセンター等を含め、区役所において自主防災組織や避難所運営協議会の訓練や補助金交付など、日頃より地域の防災活動の活性化と支援に取り組んでいる。今後も、区における取組については、皆様のご理解を賜りながら、引き続き地域防災力の強化に努めてまいりたい。各区における地区防災の機能強化については、本市としても大変重要な課題と認識しているので、今後とも検討を続けてまいりたい。</p> <p>災害時の情報提供については、ひばり放送の内容を確認できるテレビからのデータ放送やテレホンサービス、またNHKのデータ放送による避難情報、避難所の開設情報の配信など、さまざまな伝達手段を用いて、多重化・多様化に努めている。</p> <p>たとえば、テレビ神奈川のデータ放送では、ひばり放送などの内容を文字情報で確認することができ、非常に有効な手段だと考えている。ひばり放送とともに、防災メールやテレビ神奈川といったものを活用いただければ、より一層避難等について判断がしやすくなるのではないかと考えている。</p> <p>また、災害に関する情報の取得方法については、防災ガイドブックを全戸配布したほか、広報さがみはらや自治会の回覧など、地域の皆様のご協力のもと周知</p>

	<p>に努めているところであり、今後とも皆様方に防災訓練などの機会に周知にご協力いただければと考えている。今後も、更に様々な状況に対応できるよう、新たな個別の伝達手段の導入について、事業者等の提案等を研究していきながら検討してまいりたい。（危機管理局）</p>
<p>主な質疑等</p>	
<p>質問要旨</p>	<p>戸別受信機の導入について、市として取り組む考えはあるか。</p> <p>また、自主防災の補助金について、大野南地区では、全32の自治会に公平に補助金を渡したいという考えを持っているが、ほとんどの自治会からは、20万円の補助金額を要望する声が上がっており、実際に市から支給される金額との差がかなりでてしまっている。こういった状況について、市の見解や皆様のご意見を伺いたい。</p>
<p>回答</p>	<p>国では戸別受信機の導入促進を進めているが、各家で情報収集する方法として防災ラジオなども挙げられるため、様々な方法における特徴、メリット、デメリットなどについて研究し、対応していきたいと考えている。（危機管理局）</p> <p>今年から補助金希望額の上限を20万円ということで設定したが、すべての自治会が20万円を希望してしまうと、当然全体として足りなくなってしまう。そのため、各自治会で本当に必要な資材などについて議論いただき、計画的に購入していただければと考えている。</p> <p>地域の方の色々なご意見をいただきながら、限られた予算の中で地区の自主防災力が向上するように市としても取り組んでまいりたい。（南区役所）</p>
<p>質問要旨</p>	<p>テレビや携帯電話で色々な情報を得られるのは素晴らしいが、その大半は電気が元となっている。停電時にはどう対応するのか、考えていただく必要があるのではないか。</p>
<p>回答</p>	<p>停電時には、乾電池式のラジオを活用いただいたり、携帯電話などの充電式のものにより情報収集していただいたりと、停電時にもご使用いただけるものを活用いただきたいと考えている。</p> <p>具体的にどういったものがあるのか、まずは市民の皆様にご存知いただくことが大切であると考えているため、市として日頃から周知に努めていくとともに、地域の皆様にも色々な集まりの時に、防災ガイドブックなどの周知をしていただくなど、色々ご協力いただければと考えている。（危機管理局）</p>

<p>質問要旨</p>	<p>自治会の防災隊長などは順番性で行われているが、事前知識は何もなく、右も左もよく分からない状態であった。</p> <p>防災については、知識などをしっかり深め、訓練を重ねた上で、対応していく必要があると考えるが、組織のそういった形などが継承されていくことは非常に難しいのではないかと思う。そのため、組織内の人づくりを行ったり、組織の在り方を考えるような勉強会を開催したりするなど、何か取組を行えばよいと考える。</p> <p>また、自主防災組織は自治会単位という形になっている一方、避難所は小学校単位という形になっており、非常に面倒な問題がたくさん存在しているが、なかなか改善されておらず、これまでの組織の形をずっと継続しているだけである。</p> <p>そういった自主防災組織や避難所組織のあり方といったものに関する勉強会や、組織のあり方そのものに関する情報について提供していただいたり、改革をしていただいたりすることが非常に大事ではないかと考えている。</p> <p>また、水害や火災など様々な災害に関するマップが統一して作られていないことも問題であると考えている。</p> <p>たとえば、消防関係と危機管理課でそれぞれ作られている防災マップは融合されておらず、活用が非常に難しい。本来であれば、各区にそういった防災マップをまとめたものを作っておくべきだと考える。</p> <p>実際に災害が起きた時に被害に合うのは住民であるという認識を持っていただき、組織の人づくりや改革を進めるような取組をしていただきたい。</p>
<p>回答</p>	<p>自主防災隊のエリアと避難所運営協議会は必ずしも一致せず、数やエリアの問題もある中、すべて統一するのは物理的に難しいと考える。</p> <p>そこで必要なのが、日頃から情報や意識を共有化していくことであると考え。市としても活動事例集を作成したり、防災専門員を配置したりするなど、色々な形で相談に応じることができるような体制づくりに今後も取り組んでいきたい。</p> <p>防災マップについては、できれば統一したいと考えているが、エリアや用途、縮尺、そして避難所の情報など、様々なものを一緒に入れ込まなければならず、すべて一緒にしてしまうとかえって混乱を招く恐れがある。そういった様々なことを考慮した上で、良い方向に持っていけるように今後も検討していきたい。 (危機管理局)</p> <p>自主防災組織には、色々な方に携わっていただき、基本的な防災知識を身に付けていただきたい。その他、専門的な部分については、防災マイスターなど、地域の様々な方から情報をいただきながら、市としても自主防災隊の精度を高めるために一緒に取り組ませていただきたい。(南区役所)</p>

<p>質問要旨</p>	<p>過去の会議で、テレビ神奈川を受信できない方がいるという話を伺い、問題であるように感じた。災害時に頼りになるのはテレビ神奈川であると考えており、テレビの放送が終わる夜中の時間帯であっても、ひばり放送の内容を確認できるという話を以前伺った。</p> <p>また、テレホンサービスも有効であると考えているが、有料となっている。過去に無料化を提案させていただいたが、それは難しいとのことだった。</p> <p>その他、災害時に頼るものとして、FMさがみも挙げられるが、FM放送は電波状態があまり良くなく、相模原全体はカバーできていないのではないかと思う。</p> <p>そこで、最終的に頼りになるのはやはりひばり放送であり、避難準備についての放送をより充実させるべきではないかと考えている。そのため、テレビ神奈川を受信できない家庭については、何らかの形でカバーする必要があるのではないか。</p>
<p>回答</p>	<p>先ほど、テレビ神奈川のデータ放送の話をさせていただいたが、NHKでも避難所の情報などは出ている。テレビ神奈川をご覧いただけない時は、NHKをご利用いただきたい。</p> <p>ひばり放送は音声のため、気密性の高い住宅の場合、音が入らなかったり、雨風のときには音が聞こえなかったりということがあるので、テレビ神奈川やNHKもご利用いただきたい。（危機管理局）</p>
<p>意見等</p>	<p>場所によっては、テレビ神奈川の電波が弱いところもあるようである。</p> <p>データ放送については、テレビのリモコン操作が苦手な高齢世代にとって利用しにくいという点がある。</p> <p>また、先ほど、会長が単年度で変わっていくと、組織に広がりが出るが深みが出ないという話があり、正にその通りであると思った。そういった事情を考慮していただき、複雑な避難所マニュアルは改善していただきたいと思う。ダイレクト版でも構わないが、次の人に引き継ぎやすいものにしていただきたい。</p> <p>そして、区の防災に関する役目は地域振興課が担っているとの話を伺ったが、単年度で変わる自治会長からするととても分かりにくい。</p> <p>せっかく専門職がいるのであれば、もう少しきちんと分権していただき、災害における地域ごとの窓口をしっかりと作っていただきたい。</p>

課題事項 2	共助の体制の強化に繋がる新たな補助制度の構築について
概 要	<p>自主防災隊の活動は、市の補助制度に支えられている部分が大いにもかかわらず、毎年のように自主防災組織活動事業費補助金が減額されている。そのため住民全体が必要としている防災倉庫や仮設トイレ、テント等の購入単価の高い物品の購入には、本補助制度を利用することが難しく、本来は各家庭で備蓄すべき食料品や飲料水等、比較的購入単価の低い物品の購入に充てられているのが現状である。このような状態は、住民の自主防災隊依存を助長し、自助能力を低下させるだけではなく、ひいては共助の体制の弱体化につながるため、大型の資機材の購入に関しては別の補助制度を設けるといった地域防災力の向上に結びつく新たな制度が必要と考えるが、市の考えを伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>避難所における避難所生活に必要な不可欠な防災倉庫と仮設トイレについては、市としても整備させていただいている。</p> <p>相模原市自主防災組織活動事業費補助金については、大型の資機材が購入しにくいという皆様のご意見を踏まえ、従来、構成世帯数ごとに2万円から20万円までの7段階に設けられていた補助限度額を撤廃し、一律20万円の限度額とさせていただいた。また、この予算の配分についても、区長が各地区における申請予定額の状況等について調査し、実情に応じた配分をすることができるよう、今年4月に交付要綱を改正したところである。</p> <p>自主防災組織は共助の根幹をなす大変重要な組織であると認識しており、市としては、本補助制度の周知と浸透に努め、今後とも引き続き支援してまいりたい。(危機管理局)</p>
主な質疑等	
質問要旨	<p>自治会を構成している町内ごとに、更に小さな班が存在するが、小さい単位である班の中のほうが、互いに日頃の交流もあるため、顔見知りになり、助け合いが一番しやすいのではないかと考える。</p> <p>また、様々なことについて、地域の皆様に情報を伝える手段も必要であると考えており、現在黄色い旗などを各戸全てに配るという取組を行っている。</p> <p>防犯グッズについて、1つ200円のものがあったとしても、自治会全体に必要な個数を揃えとなると、金額が大きくなってしまふ。</p> <p>その他、安全対策に関する印刷物についても、外に貼るものであれば、直射日光に当たっても劣化しづらい材質でなければならず、現在いただいている補助金額では足りない状況である。たとえ補助金が足りなくても、必要であれば用意しなければならないため、他に支援いただけるようなところはないのか。</p>

<p>回答</p>	<p>様々な災害が頻発している中で、市としても自助、共助には力を入れて取り組んでおり、市全体の予算としては、自主防災に関する金額を増やしているところである。南区としても予算を増やしているが、地域の実情に応じた形で各自治会に配分している中で、十分な金額がそれぞれの単位自治会に行きわたっていないことについては申し訳なく思っている。</p> <p>市としては、限りある予算を更に有効に使えるように、地域の皆様とご協力させていただきたいと考えている。</p> <p>地域振興課には、消防職員を現役で引退し、防災の専門知識に長けている職員が2名配置されているため、自治会の防災に関することや防災訓練などの際に、ご相談いただければと考えている。運営面、予算面について皆様と協力させていただきながら、いつ起きるか予測できない災害について、対応していきたいと考えている。（南区役所）</p>
<p>質問要旨</p>	<p>単年度ごとに予算を組むのが原則であると思うが、自治会でいただいた補助金を翌年に繰り越し、積み立てていくことはできないのか。市が示している災害時に必要なもの以外、購入は考えていないが、自治会の人数が多い場合、どうしても合計金額が大きくなってしまふ。そのため、自治会で計画を立て、積み立てることができればと考えている。</p>
<p>回答</p>	<p>区長権限として、地域の中でそういった調整をすることができる。繰越という形ではないが、それに実質近い状態で、各地域の実情を踏まえながら調整いただくことができる。（南区役所）</p>
<p>意見等</p>	<p>自治会長などがすぐに変わっていく中、自治会で計画を立て、お金の積み立てをしていくということは現実的ではないと考える。プールできるような仕組みを作らなければ難しいだろう。</p>